

講義概要 (総合教養科目用)

授業科目 (サブタイトル)	IT 技術Ⅱ AI・デジタル社会と活用					担当者名				近澤 優子			
区分	必修 選択					実務経験の有無							
分野	人間教育の基礎					担当形態				単独 複数 オムニバス クラス分け			
資格区分	幼二種：必/保育士：選					科目ナンバー				100190			
幼二科目区分	情報機器の操作					学科				全学科			
保育士系列	教養科目												
授業形態	講義	演習	実習	実技	単位	2	授業回数	15回 (30時間)	開講時期	1回生		2回生	
	2単位：事前30h/授業30h/事後30h					前期				後期	前期	後期	
アクティブ ラーニング (○印)	ディスカッション					○	グループワーク				○		
	プレゼンテーション					○	実習、フィールドワーク						
	ICT					○	その他						
テーマ (授業目的)	<p>これからのデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを適切に理解しそれを活用する能力は、読み・書き・そろばんの技能と同様に、必須となる能力である。</p> <p>この授業では、データサイエンスやAIが社会にもたらした変化や活用事例の紹介、実データを用いた演習やグループワークを通して、社会でデータ・AIを利活用するための基礎的な能力を涵養することを目的とする。</p>												
授業概要 (授業内容/方法)	<p>授業は大きく次の3部で構成される。第1部(第1回～第5回)「社会におけるデータ・AIの利活用」では、データ・AIが社会にもたらした変化や活用事例について、講義およびグループワークを行う。第2部(第6回～第14回)「データを読む、説明する、扱う」では、身近なデータを用いたコンピュータ演習を通してデータを適切に読み解き分析する能力を身につける。第3部(第15回)「データ・AI利活用における留意事項」では、データ・AI利活用における負の事例の紹介およびグループディスカッションを行い、デジタル社会におけるリスクについて考える。</p>												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データサイエンス・AIが社会にもたらした変化について説明できる。</li> <li>2. データ・AIの活用事例について説明できる。</li> <li>3. データ・AIの利活用に当たり留意すべき事項について説明できる。</li> <li>4. データが持つ意味を理解し、適切に処理・分析を行うことができる。</li> </ol>												
全学DP (関連性○印)	1. 自立のために目標を明確にし、自らの意思で努力できる。(勉勵努力)											○	
	2. コミュニケーションにより互いに理解し、力を合わせるができる。(和衷協同)											○	
	3. 高い倫理観をもち、真心をもって誠実に行動することができる。(至誠一貫)											○	
	4. 倫理・道徳的な教養と専門的知識を身につけている。(知識・理解)											○	
	5. 時代に対応した専門的知識や技能を実践的場面で活用でき、継続して自ら学び続けることができる。(思考・判断)											○	
	6. 適切な情報を選択し、自ら考え、他者に提示できるとともに、新たな価値を創造し発信することができる。(技能・表現)											○	
学科DP (関連性○印)	1. 生活を取り巻く環境・健康・福祉に関する知識と技術を身につけ、生活場面及び地域社会で活用できる。(知識・理解)											○	
	2. 人を思いやる心をもって、豊かで安全・快適な生活を創造するため、主体的に行動できる。(思考・判断)												
	3. 多様な職種での役割を理解するとともに、円滑なコミュニケーションを図り、他者と連携し協同することができる。(技能・表現)												
コンピテンシー (身につける能力) (◎△○印)	1 自立力 将来	2 自立力 継続	3 コミュニケーション力 相互	4 コミュニケーション力 協同	5 社会貢献力 模範	6 社会貢献力 社会	7 展開力 実践	8 展開力 主体	9 プレゼンテーション力 情報	10 プレゼンテーション力 新	11 専門的な展開力 実践	12 専門的な展開力 主体	
							△	△	○	○	◎	◎	

講義概要（総合教養科目用）

授業計画

No.	テーマ	予習（事前学習）	復習（事後学習）			
1	イントロダクション、社会で起きている変化 ーデータサイエンスやAIが社会にもたらした変化	シラバスを読み科目内容を把握しておく	授業中に学んだ内容を復習する			
2	社会で活用されているデータ ーデータの種類、データの所有者、構造化データと非構造化データ	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
3	データ・AIの活用領域 ーデータ・AIの活用領域の広がり	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
4	データ・AI利活用のための技術 ーデータ解析、データ可視化	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
5	データ・AI利活用の現場と最新動向 ーデータサイエンスのサイクル、データ・AI活用事例、AIを活用した新しいビジネスモデル	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
6	データを読む ーデータの種類、データの分布、データの代表値、データのばらつき	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
7	データを読む ー分割表とクロス集計表、データ分析上の注意	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
8	データを読む ー散布図と相関係数、相関と因果	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
9	データを読む ー母集団と標本抽出、統計情報の正しい理解	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
10	データを扱う ーデータ解析ツール、表形式のデータ	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
11	データを扱う ーデータの集計・並び替え・ランキング	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
12	データを説明する ーデータの可視化（グラフ・チャート化）	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
13	データを説明する ーデータの比較	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
14	データを説明する ー不適切なグラフ表現、可視化による気づき	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
15	データ・AI利活用における留意事項 ー情報セキュリティ、個人情報保護、データ倫理	授業テーマについて調べておく	授業中に学んだ内容を復習する			
成績評価の基準 (GPA)	評価区分	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点～0点
	本学評価	S	A	B	C	D
	付加するGP	4	3	2	1	0
課題等のフィードバック	次回の授業でフィードバックする。					
定期試験に関する事項	試験期間中に定期試験を実施しない。					
成績評価の方法及び基準	授業中の取り組み態度 20% 授業時の課題・レポート 80% 以上から総合的に評価する。					
学修ポートフォリオ	学修達成状況を評価表により担任へ報告する。					
教科書/参考文献等 <教科書及び参考文献>著者名『書名』（出版社名）	<教科書> 『AIデータサイエンスリテラシー入門』吉岡剛志・森倉悠介・小林領・照屋健作(著)、2022、技術評論社					